

令和 5・6・7 年度

実践研究報告書

● 研究主題 ●

「これからの時代をたくましく生きる江東のこどもたち」
～ 質の高い幼児教育とは ～



江東区立幼稚園教育研究会



江東区の幼児教育の先駆者として、 「みんな、かがやく！」教育をリードする

江東区教育委員会 教育長 本多 健一郎

江東区立幼稚園教育研究会が、研究主題「これからの時代をたくましく生きる江東のこどもたち～質の高い幼児教育とは～」のもと、3部会において3年間にわたって研究を深められた成果を研究集録としてまとめられたことに敬意を表します。

「主体的に環境に関わり、夢中になって遊ぶ幼児の育成 ～一人一人の心に寄り添った援助を通して～」これは、3部会の研究主題のキーワードを並べたものです。3部会の研究は、区幼研の研究主題にしっかりとつながっており、日々の実践を見ていけば分かることですが、先生方の3年間の研究は、まさに質の高い幼児教育でした。また、本区では「就学前教育スタンダード」、「江東区保幼小連携教育プログラム」、「江東区連携教育の日」により、接続期の教育の充実を図っておりますが、各部会で小学校教育研究会との連携を深められたことも特筆すべきことです。

今後も研究を深められ、江東区の幼児教育の先駆者として、「みんな、かがやく！」教育をさらにリードしていただくことを期待しております。



こどもたちの笑顔のために

江東区立幼稚園教育研究会 会長 垣脇 史枝

令和5年4月からの3年間、私たちを取り巻く環境は大きく変化しましたが、幼児の安全・安心を最優先にした「こどもたちの笑顔のために」という思いは変わらず、各部、それぞれのテーマで研究を進めてまいりました。そして、ここに研究の成果をまとめることができました。この研究集録と研究発表会を通して会員の皆様と学びを共有し、さらに教師力を高めてまいりましょう。

今回は、新たな試みとして研究集録に区幼研だより49号を組み込みました。これからも会員の皆様と共に新たなことに挑戦する区幼研でありたいと思います。

最後になりましたが、このような貴重な研修と研究発表の場を与えてくださった江東区教育委員会の皆様、講師の先生方に心より御礼申し上げます。



自発的な学びの集団 = 区幼研

江東区立幼稚園長会 会長 福原 良子

区幼研発足以来、私たちが大切にしてきた「自発的な活動としての遊び」の重要性が、今、改めて認識されています。その「遊び」を支えるには、幼児一人一人の興味・関心、夢中になっていること、育ちつつある資質・能力等を私たち教師がしっかりと捉えたうえで、意図的・計画的に環境を構成することが欠かせません。文字にすると、たった70字ですが、このことがいかに難しく、奥深いかということは、言うまでもありません。マニュアルもなく、正解も一つではない中、悩み迷うことも少なくありませんが、区幼研で仲間と語り合うことで、自分だけでは思いつかない手立てにも出会えます。「自発的な活動としての遊び」を支える、「自発的な学びの集団」であり続けられるよう、「ともに」進んでいきましょう。

結びに、このような機会を与えてくださいました江東区教育委員会に深く感謝申し上げます。

目次

江東区教育委員会 教育長挨拶
江東区立幼稚園教育研究会 会長挨拶
江東区立幼稚園園長会 会長挨拶

研究主題のとらえ方	1
第1部会 「夢中になって遊ぶ幼児を育む」	2
第2部会 「主体的に環境に関わり、遊び込む幼児を育む ～幼児の「やってみたい」「もっとやりたい」を引き出す環境の工夫～」	4
第3部会 「一人一人の心に寄り添った援助について考える ～安心して自分を出し、共に育ち合う幼児を目指して～」	6
特集ページ 「区幼研&区小研 連携」	8
総会・講演会 報告	9
ブロック研究会 報告	10
実技研修会 報告	12
「新たに3歳児保育が始まりました！」	13

研究主題の捉え方

幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、幼稚園は、幼児期に育みたい資質・能力を育成するよう保育の質の向上に一層取り組んでいく必要があります。「東京都教育ビジョン（第5次）」では「誰一人取り残さず、すべての子供が将来への希望を持って、自ら伸び、育つ教育」を目指し、江東区教育委員会は「教育推進プラン・江東（第2期）」において「こどもたちが、夢に向かってのびのびと育ち、未来を担う人となること」を掲げ、教育を推進しています。全てのこどもたちが主体的に伸び伸びと自己を発揮し、一人一人のよさと可能性を伸ばす教育が、今、ますます求められています。

このような現状の中、私たち江東区立幼稚園教育研究会は、教員一人一人が専門性を磨き、互いに学び続けていくことが必要であり、区全体でこどもたちが「みんな、かがやく！」教育環境を充実させていくことが重要であると考えました。そこで、研究主題を「これからの時代をたくましく生きる江東のこどもたち～質の高い幼児教育とは～」としました。

第1部会 『夢中になって遊ぶ幼児を育む』

主題設定の理由

私たち教師は、夢中になって遊ぶ幼児を育てたいと願っている。幼児が夢中になって遊ぶ過程には、様々な学びや育ちがちりばめられているからである。

しかし、幼児の実態として、「自分のやりたいことが見付けられない」「遊びが継続しない」「人との関わりが希薄である」といった姿が見られることがある。また、園ごとに、「園児数の減少に伴う少人数での保育の工夫」「特別な配慮を必要とする幼児の増加に対応した保育の工夫」「3歳児の保育のさらなる充実」などの新たな課題も生じている。

そこで本部会では、「夢中になって遊ぶことで育つものや獲得する学び」、さらには、「それらを生み出すための環境の構成や教師の援助」について明らかにしたいと考え、本主題を設定した。

研究の方法・内容

- 写真を活用した実践事例を通じた話し合い
- 教材研究 ● 研究保育 ● 講演会
- 区小研生活・総合部会との合同研修

講演会講師

- 教育調査研究所 理事 寺崎 千秋 先生
- 聖心女子大学 名誉教授 河邊 貴子 先生
- 中央区教育委員会 幼児教育担当専門幹 渡邊大二郎 先生

3 歳

4 歳

本部会における「夢中」の定義

- 自分なりに興味をもったことに対して「やりたい」「楽しそうだな」という思いをもつこと
- 「楽しいな」と感じながら安心して遊ぶこと

- 自分なりの目的をもって、その実現に向けてじっくり遊ぶこと
- 少し難しいことへもチャレンジすること
- 「もっとやりたい」という思いをもちながら遊ぶこと

「寒天遊び」(7月)

寒天を使って感触を楽しんだり、解放感を味わったりした事例



せんせい！
なにしているの？

つめた〜い！
ぐちゃぐちゃだ〜！

- 教師がしていることに興味をもち、「やってみたい」と思っている。
- 感触（温度、触り心地など）を楽しんでいる。
- 遊び方に正解がなく、言葉がなくても自由に楽しんでいる。

- ・安心感 ・全力 ・楽しい ・やってみたい
- ・まずは自分で ・居場所となる場がある など

- ★ 一人一つの用具を使えるようにマイカップを用意する。
- ★ 素手で触れるように道具を少なくする。

- ◆ 教師も仲間となって楽しさに共感したり、幼児のつづやきを拾ったりする。

「みんなで一緒に！～かいぞくごっこ～」(10月)

学級の友達と海賊のイメージを共有して、ごっこ遊びを楽しんだ事例



みんなでのれる
ふねができた！

たからじま
はっけん！

かいぞくせん
みたい

- 安心できる拠点となる場、イメージがより具体的になる物（絵本、音楽、身につける物など）があることで、友達とイメージを共有して遊ぶことを楽しんでいる。
- 生活の経験を生かし、「こうしたい」「もっとやりたい」を遊びの中で実現し、繰り返し遊ぶことを楽しんでいる。

- ・発見 ・もっとやりたい ・やってみよう
- ・できた ・先生や友達と一緒に ・楽しい
- ・変化を楽しむ ・年長児への憧れ ・試行錯誤 など

- ★ イメージがより具体的になり、簡単に作ることができる素材を準備する。
- ★ イメージを共有できるような物を用意しておく。

- ◆ やりたい気持ちを受け止め実現できるようにする。
- ◆ 楽しんでいることに共感し、一緒に楽しむ。

安心感を土台にして「夢中」の種まきをする
先生と一緒にいろいろな楽しいことをやってみよう♪



まとめ

分かったこと

- 3歳は、安心感、教師との信頼関係が基盤となる。幼児がやりたいと思った時に、その思いが満たされるように、十分な環境を構成し、援助していく必要がある。また、意図的に夢中の種まきをたくさんしておくことが大切である。
- 4歳は、夢中になって遊ぶことにつながるよう、教師が幼児のやりたい気持ちを受け止め、見守り支えること、何を楽しんでいるのかを読み取ること、場や時間の保障をすることなどの援助が大切である。
- 5歳前半頃は、個に応じて、幼児に寄り添い、幼児が自信を積み重ねられるよう援助していくことが大切である。そうすることで、5歳後半頃になると、友達と互いのよさを認め合い、遊びを充実させることができる。
- 夢中で遊ぶことを積み重ねていくことが、幼児の自信につながり、小学校以降への学びに向かう力につながっていくのではない。

今後の課題

- 幼児が、どのくらい夢中になって遊んでいるのかを読み取る明確な視点をもって、保育を実践していく。
- 発達や学級の実態に合わせ、幼児が夢中で遊ぶための環境の構成や援助をしていく。
- 保護者や地域へ、夢中で遊ぶことの大切さについて分かりやすく発信する方法を工夫する。

個の遊びの充実

5 歳

学級や友達とのつながり

小学校への
接続

- 一人ではできないことでも、友達と話し合ったり協力したりしながら、楽しく遊びを進めること
- 好きな遊びや行事の中で、目的や見通しをもって、試行錯誤しながら遊び、達成感を味わったり自信をもったりすること

「わあ！きれい」色水遊び（5月）

クレヨン紙を使って、色水を作り、色の濃さや混色を楽しんだ事例

〇〇ちゃんの いろみたくに 作りたい。 どうやってつくるのかな。



このいろじゃないんだよねー



- 自分なりのめあてをもち、繰り返し試している。
- 友達のしていることに気付き、考えを表したり、一緒に考えたりしている。

- ・目的をもつ
- ・予測する
- ・課題
- ・意外性
- ・ちょっと難しい
- ・失敗
- ・面白い
- ・悔しい
- ・粘り強く試す
- など

★ 継続してできる時間や場を確保する。

★ 個に応じて、幼児が少し難しいことにチャレンジできるようにねらいを設定する。

◆ 幼児一人一人の試しに寄り添う。

◆ 育ちを踏まえた個々のねらいをもって関わる。

研究保育「投げごまチャレンジ」（3月）

投げごま遊びで、友達と一緒に遊びのルールや技を考えた事例

みんな！ いいこと かんがえたよ！



ぼくのかんがえた むずかしいわざをみて！

さいごまでまわった チームが 1ポイントにしよう！

あー たのしかった！

- 自分たちで遊びを作り出し、目的を共通にすることで、楽しさが増している。
- 友達と一緒に遊ぶ充実感を味わっている。

- ・友達と考える
- ・共通の目的をもつ
- ・遊びをつくり出す
- ・友達と刺激を受け合う
- ・友達と遊ぶ充実感を味わう
- ・自信をもつ
- ・行事を通しての体験
- など

★ 友達とのつながりを感じられる掲示物・場の設定をする。

★ 目的が視覚的に分かりやすい工夫をする。

◆ 友達のよさを幼児が共有できるようにモデルを示す。

◆ 一人一人の自信につながるよう「よさ」を言葉にして認め、学級として「認め合う」雰囲気づくりをする。

見通しをもつ

達成感

試行錯誤

自信

援助



安心感

第2部会 『主体的に環境に関わり、遊び込む幼児を育む』

主題設定の理由

幼稚園教育要領解説には、幼児が「自分から興味をもって環境に主体的に関わりながら、様々な活動を展開し、充実感や満足感を味わう体験を重ねていくことが重視されなければならない(抜粋)」と示されており、幼児期の教育においては、主体的に環境に関わり、遊び込む幼児を育むことが重要である。しかし実際は、教師が用意した環境が幼児の興味や実態と合っていないかったり、環境の再構成の仕方やタイミングが分からなかったりして、主体的に環境に関わり、遊び込む幼児の姿につなげる環境の工夫ができていないことが多い。そこで私たちは、幼児の思いや実態を的確に捉え、幼児が「やってみたい」と思う魅力的な環境や、「もっとやりたい」という思いをもち続けながら遊びを展開するための環境の工夫について探りたいと考え、本主題を設定した。

研究の方法・内容

- 事例検討 ● 講演会 ● 研究保育
- 学年ごとに「まとめシート」を作成し、遊びや幼児の実態に応じた環境の工夫や教師の援助のあり方を探り、実践する。

講演会講師

- 東京成徳短期大学幼児教育科長 教授 松本 純子 先生
- 国立音楽大学付属幼稚園 主任 北野 玄二 先生
- 日本女子大学 非常勤講師 鳥塚 恵子 先生

「まとめシート」の作成

「まとめシート」について

様々な幼児の姿や思いに応じた環境を構成するために、重要と考えられる項目を整理し、一目でわかるように「まとめシート」として作成した。

「まとめシート」の項目	記入する内容
遊びの要素	遊び自体の面白さやよさ、難しさについて記入する。
幼児の姿	「やってみたい」「もっとやりたい」をキーワードに、具体的な幼児の姿について記入する。
経験してほしい内容・願い	幼児の姿に合わせて、今後経験してほしい内容や、教師の願いについて記入する。
環境の工夫や教師の援助	幼児の姿や、経験してほしい内容や願いに合わせた具体的な環境の工夫、大切な教師の援助について記入する。

3 歳児

3歳児は発達や経験の個人差が大きいため一人一人の発達や視野の広がりに合わせて環境の工夫や教師の援助を整理した。

…3歳児のおおまかな発達の姿

★…環境の工夫や教師の援助

今までの経験を生かして場を作ったり
自分なりのイメージをもって遊んだりする

- ★遊び方のモデルを示す
- ★幼児が少し手を加えたらできるような物を用意する

友達と一緒に
過ごすことがうれしい

- ★仲介することで友達と繋がりがもてるようにする
- ★幼児が発した言葉をキャッチする
- ★幼児が選択できる物を用意する

興味関心が少し広がり
好きな遊びが増える

- ★幼児の興味関心に合わせた環境を設定する
- ★幼児が見える場所に遊びに必要な物を置く

一人一人が好きなもの、
安心できるものと
関わって遊ぶ

- ★学級の人数以上の遊具を置く
- ★すぐに遊び出せる環境を用意する

- ★幼児が興味をもちそうな物を用意する
- ★やりたくない気持ちも受け止める

↑
幼児の視野の広がり



「まとめシート」の活用により分かったこと

願いを込めて用意した素材や遊びのきっかけとなるようなもの(お面、マントなど)を使って、教師が楽しむ姿を見せることで「やってみたい」と思えるようになる

そのために・・・

- 幼児の視野の広がりに合わせて環境の工夫をする
- 安心して取り組むために、分かりやすい物的環境や困ったときにすぐに支えてもらえる人的環境が必要

4

学級の実態に合わせて取り組んだ環境の工夫について検討を重ねた。

…幼児の姿 ●…教師の願い

興味をもちにくい幼児

- 教師や友達がしている遊びに興味をもち、自分でやってみることを楽しんでほしい

水の感触を楽しみたい幼児

- 水の感触を楽しんだり、解放感を味わったりしてほしい

混色をじっくり楽しみたい幼児

- 自分なりに試しながら色の美しさや変化を感じてほしい



「まとめシート」

「やってみたい」と繰り返し遊びを
たい」と意欲をもつようになる

そのために・・・

- 手に取りやすい場に、幼児の
- 幼児の思いやイメージを実現
- 幼児が興味をもった遊びを繰
- 教師も一緒に楽しむ中で幼児

学年で分かったこと

～幼児の「やってみたい」「もっとやりたい」を引き出す環境の工夫～

まとめ

研究の成果

- 学年ごとに、その時期の遊びや幼児の姿について話し合い、幼児の興味や実態を捉えて環境構成を工夫した。その結果、幼児にとって魅力的な環境になり、興味をもって関わる姿が見られるようになった。また、幼児が自分なりに遊びをより楽しくするために「もっとやりたい」と試行錯誤しながら遊びを展開するようになった。
- まとめシートを活用して「幼児の姿」「経験してほしい内容」「環境の工夫」を分かりやすく整理したことで、教師は幼児の実態や思いに合わせながら、活動の展開を見通した環境を構成することができるようになった。また、幼児と共に環境を作っていく際にも様々な工夫ができるようになった。
- 主体的に遊びや環境に関わり、遊び込む幼児を育むための学年ごとの環境の工夫や教師の援助が明らかになった。

今後の課題

今後も「まとめシート」を活用しながら、幼児理解や環境の工夫について探り、保育の質のさらなる向上を目指す。



「まとめシート」を活用する際に大切にしたいポイント

- 「遊びの要素」を考慮した上で、遊びを通して幼児に経験してほしい内容や、そのために必要な環境の工夫・教師の援助を考える。
- 様々な「幼児の姿」を具体的にイメージし、それぞれの姿に合わせて、幼児がより主体的に環境に関わったり、遊び込んだりするための環境の工夫や教師の援助を考える。
- 「幼児の姿」、「経験してほしい内容や願い」、「環境の工夫や教師の援助」がつながっていることを再確認する。
- 今後、遊びがどのように展開されるのか、どのような幼児の姿が見られるのか、必要な環境の工夫や教師の援助は何か、について「まとめシート」を参考に見通しがもてるようにする。

歳児

色水の事例を持ち寄って共有し、さらなる

★…環境の工夫や教師の援助

- ★見立てやすい材料を用意する
- ★教師も一緒に楽しみながら、楽しんでいる幼児の姿に気付かせる

- ★混色を楽しみたい幼児と場を分けることで思い切りできるようにする

- ★扱いやすい用具を用意する
- ★色の変化を見やすいように環境を工夫する

< 実践後の幼児の姿 >

- ジュースやゼリーに見立てながら、教師と一緒に楽しむ姿が見られた。
- 白い布を敷いたことで色の変化が見やすくなり、混色の楽しさに気づき、繰り返し取り組む姿が見られた。

の活用により分かったこと

楽しむことで満足感を味わい、「もっとやり

実態やねらいに合った用具を用意することができるような用具や教師の援助を工夫する
り返し楽しめるように環境を整える
の楽しんでいることに共感する

5 歳児

遊びが継続しやすいため、投げゴマの活動を長期にわたって検証し、予想される姿に合わせた環境の工夫や実践、評価反省を下記のように重ねた。

STEP 1 11月 実態や予想される姿をもとに援助や環境を話し合う

回せるようになった後どのように遊びを展開するかな。

友達と協力したり、助け合ったりしながら遊び込んでほしい。
どのような遊びがよいか。



STEP 2 12～1月 各学級で実践、実態把握

環境 自由に記入する投げゴマの技カード、フープや厚紙など



環境 タブレットのストップウォッチ機能



STEP 3 2月 実践した環境や幼児の取組の様子を共有し、各園で再検証

環境の工夫や教師の援助により、考えた技を友達と見せ合ったり、最長記録を目指して挑戦したりと、繰り返し投げゴマに取り組む幼児が増えた。

「まとめシート」の活用により分かったこと

「少し難しい」と思える具体的なめあてや目標がもてる環境を設定することで、「もっとやりたい」という意欲が高まる

そのために・・・

- 幼児からやりたいことや考えを引き出す
- 十分に取り組める時間や場を保障する
- 協力する、助け合う、競い合うことが経験できるような活動を取り入れる
- 友達のしていることや頑張りに気付かせる
- 学級の取組を共有し、認め合いや刺激につなげる

第3部会 「一人一人の心に寄り添った援助について考える」

主題設定の理由

教師は、幼児一人一人が安心して自分を表し、伸び伸びと遊びや生活に取り組んでほしいと願っている。しかしながら、一人一人の思いやペースを大切にすることで、他児の思いも尊重できているのが悩む場面もある。幼稚園教育要領には、教師は幼児の「心の動きに応答する、共に考えるなどの基本的な姿勢」が重要であると記されている。そこで、集団生活の中で一人一人の心に寄り添い、共に育ち合う幼児を目指し、本主題を設定した。

研究の方法・内容

- 「寄り添いシート」を活用した事例検討やロールプレイ
- 検証保育と講演会

講演会講師

- 白金幼稚園 園長 仙田 晃先生
- 西新井こころのクリニック 公認心理士 橋本 弘美先生

「寄り添いシート」

「一人一人の気持ちに寄り添った援助について考える」
「寄り添いシート」

園児
対象児への寄り添い
周りの幼児への寄り添い

＜＜＜観察記録＞＞＞

観察日時	観察場所	観察対象児	観察内容

グループでの発表・話し合いの上
【発表形式】
【一人一人の気持ちへの寄り添い】
【集団への寄り添い・育ち】
【その他】

【主な項目】

- 幼児の姿
- 教師の援助
- 一人一人の気持ちへの寄り添い
- 集団への寄り添い・育ち

入園当初

わあ、すごい！
バッタを見つけたんだね。

幼児の姿



先生、
見て見て！

〇〇が
いい！

A児は〇〇がいいんだね。
B児は△△がいいんだね。
どうしようか〜。

△△が
いい！



本部会で作成した、「寄り添いシート」を活用し事例検討を

幼児の思いを 読み取る

「先生に見てほしい」という
気持ちを受け止める。

一人一人の言葉や行動の意味を
理解しようとする。

発達を見通し、 必要な経験を 促す

自分の思いを表し、
安心して過ごせるように、
幼児の喜ぶ、泣くなどの
様々な表し方を丸ごと
受け止める。

幼児自身が自分の思いを
表す言葉を知ったり、周囲の
幼児が友達の思いに気付いたり
できるように、幼児の思いを
言語化する。

相手に思いを
伝えられるように、
ふさわしい伝え方
で知らせる。

一人一人の心に寄

幼児の思いを読み取る

- ありのままの姿を受け止める。その幼児の気持ちになって考える。
- 幼児の家庭環境・生活経験・発達の過程を踏まえて読み取る。
- 目の前の幼児の姿だけを捉えるのではなく、周囲の状況、先行事象（直前のきっかけや背景）を踏まえて読み取る。

～ 安心して自分を出し、共に育ち合う幼児を目指して ～

まとめ

分かったこと

一人一人の心に寄り添った援助とは、「幼児の思いを読み取る」とこと、「発達を見通し、必要な経験を促す」ことが大切である。

教師が、家庭環境や生活経験、発達の過程などを踏まえ、幼児の思いやその時の状況を丁寧に読み取ることが援助の基盤となる。その上で、教師が幼児期に育みたい資質・能力を念頭に置き、一人一人の育ちや課題、学級集団として共に育ち合うことの両方を考え、発達を見通し、必要な経験を促すことが大切である。

教師が一人一人の心に寄り添う援助を重ね、モデルとなることで安心して自分の思いを表し、共に育ち合う幼児の育成につながるようになった。

今後の課題

- 「寄り添いシート」を活用し、一人一人の心に寄り添った援助を積み重ね、幼児理解を一層深めていく。
- 幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けて、一人一人に応じた指導を重視する幼児教育のよさを生かしながら、小学校教員と連携を図る。

添った援助のポイント

行い、一人一人に寄り添った援助のポイントを導き出した。



どうしたの？
大丈夫？

A児は〇〇、
B児は△△って
考えているのかな？
C児は何とかして
解決しようとして
いるのかな？

□□したかったん
じゃない？

修了時

目指す幼児像

- 安心して自分の思いを表す幼児
- 友達との関わりの中で互いを認め合い、共に育ち合う幼児

当事者や周りの幼児が自分なりに向き合おうとしている思いを大切にする。

互いの幼児が納得して「こうしよう」と思えるように教師も一緒にどうしたらよいかを考えたり提案したりする。

幼児が自分なりに友達の気持ちになって考えようとする姿を認める。

友達の様子に気付き、助け合えるように、声を掛けたり、互いの姿が見えやすいように環境の構成をしたりする。

学級集団としての経験や育ちを信じて見守り、友達と寄り添い合う言動を価値付ける。

り添った援助とは

発達を見通し、必要な経験を促す

- 幼児の発達を見通し、教師が一人一人の心に寄り添うモデルとなる。
- 幼児期に育みたい資質・能力を念頭に置き、「一人一人の育ちや課題」、「学級集団として共に育ち合う」の両方を考え、支える。

こどもたちの学び・育ちを確かなものにしていくためには、幼稚園・小学校の教員同士がそれぞれの教育内容の相互理解を図り、自らの教育をより豊かに充実させることが大切です。江東区では、江東区保幼小連携教育プログラムに基づき、幼児期の「学び・育ち」を滑らかに、確実に、小学校教育へつなぐことを目指し、区幼研・区小研の各部会が合同部会を開催するなど連携を深める取り組みを行っています。

第1部会

生活・総合部の先生と架け橋期の教育の充実を目指して

生活・総合部と、令和5年度から6年度にかけて、公開保育1回、公開授業2回を含む合同部会を、計4回実施しました。

実際の幼児・児童の姿と、教師の援助・指導から、「やってみたい」（興味・関心）、「楽しい・もっとやりたい」（意欲・集中力）、「友達と力を合わせて実現させたい」（思考力の芽生え・粘り強さ・協同性）など、幼児期に夢中になって遊ぶ体験が、小学校での主体的な学習や、夢中になって考え自分たちで問題解決できる力の基盤となることを共通理解しました。

また、2年続けて、幼児期の終わり頃である3月に、園を会場として、環境の構成など具体的な教師の工夫を共有する機会を設けました。よりよいスタートカリキュラムの編成について、理解を深めました。



第2部会

図工部との連携を通して

2年間を通して図工部と連携し、「ろう下とわたしたちでいい感じ（第6学年）」「つないでひろがるビニールの世界（第3学年）」などの研究授業、研究協議会に参加させていただきました。素材との合わせ方や、ワクワク感を大切にすること、自分の思いのままに表現できる安心感、教師の言葉掛けや素材を出すタイミング、こどもが選べる環境設定が大切ということが分かり、幼児教育と共通していると感じました。また、小学校の先生から「これまでの経験の積み重ねによって自分なりの表現を楽しめるようになる」ということを伺いました。幼児が様々な素材に触れ、使うことを楽しむ中で、素材の特性に気付いたり自分なりの表現を試したりする経験が小学校以降にしっかりとつながっていることを学びました。引き続き幼児期に様々な経験を積み重ねられるような取り組みを進めていきたいと思えます。



第3部会

「おめめパペット」で伝える！

区小研 学級経営・児童文化研究会に参加しました。物におめめシールを貼り、物の気持ちになって演じる体験をしました。「おめめパペット」を使うことで、物事を客観的に捉えることができ、物の思いに気付いたり、考えたりするきっかけになりました。実際に、こどもたちも感情移入できるパペットがあることで、その気持ちになって話を聞くことができるのではないかと感じ、幼稚園でも取り入れていきたいと思えました。「なりきる」こと自体がとにかく楽しく、小学校の先生方ともいろいろな会話を交わす中で、小学校の実態についても知る貴重な機会にもなりました。



講演会 報告

令和7年4月30日(水) 場所：江東区教育センター

「幼児理解や保護者理解について大切になること」

講師 公認心理師・臨床心理士 学校支援アドバイザー
橋本 弘美 先生

はじめに、幼児理解の大切なポイントをお話いただきました。幼児が行動で示すことには全てに意味があり、それは「今の精一杯の自分」であったり、「幼児にとっての『SOS』」であったりするかもしれないため、常に大人は、こどもの行動の意味を理解しようとするのが大切であると教えていただきました。100%理解できないとしても、幼児の立場になって話を聴き、受け入れようとする姿勢を示すことがポイントになると学びました。

また、保護者理解についても幼児理解と同じ意識をもち、相手の立場になって話を聴くことの大切さを教えていただきました。そして、保護者から聴いた話は、内容の理解について相違がないかを保護者に確認すること、管理職を含めた園全体で保護者に同じ対応ができるように、職員間で情報共有することがポイントになると学びました。

幼児理解と保護者理解を深めるために、教師自身の自己理解も深め、保育実践に役立てていきたいと思えます。



令和7年8月25日(月) 場所：江東区教育センター

「子どもたちの豊かな心の成長のために ～「えほんシネマ」と「声育(こえいく)」～」

講師 NHK「おかあさんといっしょ」第16代うたのお姉さん
神崎 ゆう子 先生

はじめに、日々声を使う私たちに、発声のメカニズムと様々な声を使い分けられるようにオリジナルメソッド「声育(こえいく)」について教えていただきました。実際に声帯の場所を確認したり、動きを画像で説明していただき、鏡を用いて口蓋垂の動きを確認したりしました。

声帯の消耗が少ない「頭声」と普段の「地声」を使い分けて喉のトラブルを避け、滑舌を大事に歌うことを学びました。

また、こども歌レッスンでは、「こどもがいっぱいわらってる」「まっかな秋」の2曲を実際に歌いながら、美しい日本語を正しく使うことや歌詞の意味が伝わる歌い方をすることの大切さを学びました。手遊び歌レッスンでは手遊びには起承転結があり、

起：イメージを広げるためのこどもへの投げ掛け

承：手遊びの流れを説明する(まずは、スタンダードな遊び方で)

転：発展させる(動きやテンポを変える)

結：次の日にも楽しむための一言

この4点が重要であることを学びました。

最後はコンサートで、神崎先生の素晴らしい歌声を聴かせていただき、あっという間の時間でした。改めて日々の言葉を大切に、正しい日本語で指導しながら、こどもたちと歌うことを楽しんでいきたいと思えます。



深川地区 9月17日(水) 会場：つばめ幼稚園 (平久幼稚園・南陽幼稚園・つばめ幼稚園・元加賀幼稚園)

研究主題

すくすく育つ わくわく育つ 元気いっぱい遊ぶ幼児を育むための環境の工夫 ～『食』と『運動』の視点から～

本園では、幼児の健やかな心と体を育むために、「食」と「運動」の視点から研究を進めています。「食」については、幼児の実態を把握し、文献研究も含めて検討を重ねています。「運動」については、「面白さ」を引き出す環境の工夫について、実践事例を通して話し合っています。「食べること」の喜び、「運動すること」の楽しさを園生活の中で十分に味わうことで、幼児の心と体の育成につなげています。

協議会

本ブロック研究会では、「遊びの面白さ」について幼児の姿から読み取りました。「何が育っているか」を分析する前に、「その遊びは幼児にとって何が面白いのか」が重要であると捉えたためです。個人で読み取った後、グループで協議を行い、各教師の捉えを伝え合いながら、環境の構成や教師の援助において大切にしたいことを共有しました。



講演会

講師：和洋女子大学 助教 田島 大輔 先生

「遊び」を軸に、公開保育における「教師の関わり」や「記録の意味」などについて多くのご指導をいただきました。記録にして振り返ることで、「その瞬間には気付かなかった幼児のよさや可能性に出会う」ことができ、「振り返りを積み重ねることで、教師はその瞬間に判断する力を育てていく」こと。さらに「教師が自身のよさや得意を知り、それを生かすことも大切である」と気付かせていただきました。



臨海地区 7月9日(水) 会場：ひばり幼稚園 (豊洲幼稚園・枝川幼稚園・ひばり幼稚園)

研究主題

「みんな、かがやく！」学級経営を目指して ～“一人一人の幼児の「考える」を支える援助や環境の構成を探る～

今年度の重点目標を「かんがえるこ」とし、好きな遊びや活動の中で幼児が自分なりに考え、試行錯誤する経験を重ね、一人一人が自信をもって行動できるよう援助や環境の構成を工夫しています。講師の先生から指導を受け、幼児理解の視点を明らかにした上で、「一人一人の幼児がかがやく」「自分らしく自己発揮する」ための学級経営や保育の充実について考えています。

協議会

2つのグループに分かれ、好きな遊びや活動時の幼児の姿を観察した上で「自分が担任だとしたら」と考え、幼児理解や援助等の手立てを協議しました。

活動時のグループの人数や教師の言葉掛け等について、様々な視点からご意見をいただき、「幼児が自己発揮するための援助や環境の構成」について具体的な手立てを明らかにすることができました。



講演会

講師：子ども発達コンサルタント 石澤 かずこ 先生

幼児をより深い視点から理解し、手立てを具体化できるよう心理学におけるABC分析の考え方をご指導いただきました。研究保育時の幼児の姿を実際に参加者と分析することで、各自が保育を分析する際のイメージをもつことができました。幼児が「かがやく」ためには教師が「褒めマスター」を目指すことが重要であることを理解しました。



亀大地区 6月24日(火) 会場：第二亀戸幼稚園 (第二亀戸幼稚園・大島幼稚園・第三大島幼稚園)

研究主題

みんながやく二亀の子

～様々な人との関わりを通して育ち合うための環境の工夫や教師の援助～

本園は、年中組、年長組ともに少人数学級であり、幼児同士で受け合う刺激が少なく、遊びが限定的になる傾向や、学級内での個人差が大きいという実態があります。一人一人の幼児が、学級の枠を超えて様々な人と関わることを楽しみ、自分らしさを発揮しながら、やりたい遊びに取り組むことができるようにするための環境の工夫や教師の援助について探っています。

協議会

各園で「様々な人との関わりが生まれた様子と環境の工夫」についての写真を持ち寄り、協議をしました。その中で、年中組は視覚的に分かりやすいアイテムがあることで様々な人との関わりが生まれること、年長組は、幼児同士の交流や共有のきっかけとなる環境作りをすることなどが大切なポイントとして挙げられました。

講演会

講師：有明教育芸術短期大学 子ども教育学科
准教授 信太 朋子 先生

幼児が、様々な人との出会いの中でよりよく育っていくために必要な環境の工夫と教師の援助について、お話しいただきました。また、幼児が様々な人と共に生活することの心地よさを味わえるよう、教師が、幼児一人一人の生活習慣や文化などの違いを受け止め、関わっていくことが大切であることや、多文化保育を行う上での学級づくりのポイントについてご指導いただきました。



砂町地区 6月18日(水) 会場：みどり幼稚園 (第五砂町幼稚園・東砂幼稚園・なでしこ幼稚園・みどり幼稚園)

研究主題

豊かに感じ、心を揺り動かす幼児を育むための教師の援助

～自然との関わりの中で、幼児の「やりたい！」を大切にしながら～

本園では、「恵まれた園庭をもっと生かすことができるはず」「幼児と一緒に『緑いっぱいのみどり幼稚園』を創っていきたい」という思いから、今年度の園内研究をスタートさせました。

どのような環境の構成や援助が、幼児が「豊かに感じ、心を揺り動かす」状況を生み出すのか、「やりたい！」と思うことにつながるのかなどについて追究しています。

協議会

当日の幼児の姿から、幼児が心を揺り動かす要因や、「やりたい！」と思うことにつながる援助等について、意見を交換しました。また、各園から持ち寄っていただいた写真を活用して、園庭など環境の構成の工夫について、情報を交換しました。

講演会

講師：CES(株)自然教育研究センター 練馬区立中里郷土の森 自然解説員
全国幼児教育研究協会 副理事長 新山 裕之 先生

園庭の自然物を使った「こすり染め」体験に始まり、加用文男さん、甲斐信枝さんが登場される2本の動画視聴を交え、「子どもの心に寄り添う大人の構えー大切なことは小さなことの中にー」と題してご講演いただきました。

「幼児の一番そばにいて、共に遊びや生活を創っていく教師が大切にすべきことは何か、今一度考えてみませんか」ということを投げ掛けてくださいました。教師として、どのような「構え」で幼児と共にありたいか、自身の保育を見つめ直す機会を与えていただきました。



令和7年6月25日(水) 場所: 江東区立平久幼稚園

「～こどもの学びの芽を育む～ たのしい☆ワクワク☆かがく遊び」

講師 サイエンスパフォーマー・かがくママ
すずき まどか 先生

日常の保育に、手軽な材料を使った「かがく遊び」を取り入れると、幼児が「なぜ?」「どうして?」「もっと知りたい!」と、好奇心をもって主体的に遊びに関わることを、実践を通して学びました。

①ラムネロケット

<材料>

・お菓子のラムネの容器 ・発泡入浴剤 ・両面テープ ・ビニール袋 ・トンカチ ・お湯(40℃)

<見せ方・指導のポイント>

- ★【泡が出る原理を知らせた後で実験を見せる→問い掛けて幼児に考えさせる→もう一度、実験を見せる】のように、流れや見せ方を工夫することが、「なんでだろう?」「もっと知りたい!」というワクワク感につながる。



②かさ袋ロケット遊び

<材料>

・かさ袋(ネギ袋) ・クラフト折り紙1枚 ・セロハンテープ

<作り方・指導のポイント>

- ★工程は一つずつ、幼児に問い掛けながら進めることで、安心して取り組めるようにする。
- ★羽の貼り方や枚数など様々に試すことで、羽をつける位置や重さの原理などに気付いたり考えたりしながら、「どうなるんだろう?」とワクワク感をもって進めることができる。



③シャボン玉遊び

<材料>

・水50ml ・洗濯糊(PVA)50ml ・食器用洗剤(適量) ・ストロー

<作り方・遊び方・指導のポイント>

- ★シャボン玉液は、洗濯糊にストローを用いて洗剤を少量ずつ入れ、膨らむかどうかを試す。泡が膨らまなければ、適宜洗剤を足して混ぜるとよい。
- ★年齢ごとの発達に合わせて遊び方を工夫できることが分かった。



研修後に各園で実践しました!

そーっと吹いてみよう。



うちの骨で、シャボン玉がたくさん出てきたよ。



分量を量り、何度も試しながらシャボン玉液を作ったよ。



アルミの枠を自分で作り、風の吹く方向に合わせてシャボン玉が自然に作り出される方法を考えたよ。



「かがく遊び」の大切さとは・・・

- ★考えたり試したりしながらに夢中になって「かがく遊び」を楽しむことを通して「分かる楽しさ」や「知る喜び」を体験することが、小学校以降の「学びに向かう力」の基礎を育むこととなる。
 - ★「どうして泡ができたのか?」「どのような原理で発射するのか?」「何が起きたのか?」と確認することが学びの入口になる。原理が分かったうえで、もう一度やるとさらに楽しいものになる。
- 幼児と一緒に、教師もワクワクしながら「かがく遊び」を楽しむことが大切だと教えていただきました。

新たに3歳児保育が始まりました！

令和7年4月から、新たに2園で、3歳児保育が始まりました！2園の様子をご紹介します！



つばめ幼稚園

小さな芽が双葉を広げ、やがて力強く生長（成長）していく姿をイメージして、学級名を「ふたば組」としました。こどもたちの育ちの連続性を大切に、より充実した保育を目指しています。



いらっしやいませ、たこやきいかがですか？
大好きな先生と一緒にイメージを広げながら遊んでいます。

メダカさん、見~つけた！
様々な生き物との出会いに、心がワクワク。

友達と同じ物を持って遊ぶお届け物です
うれしさを感じています。



←スタンプ遊び。
大きな紙の上で、伸び伸びと！
全身で表現する楽しさを味わっています。



第五砂町幼稚園

学級カラーの赤色にちなみ、こどもたちがイメージしやすい「いちご」を学級名にしました。元気いっぱいの年少いちご組。毎日、教師や友達とたくさんの「初めて」を経験し、ドキドキワクワクして遊んでいます。

自分の
したいことを選び、
安心して
遊んでいます。



ワニに
食べられないように
ジャンプ！

次々に
こどもたちが集まり、
遊びの面白さが
伝わります。

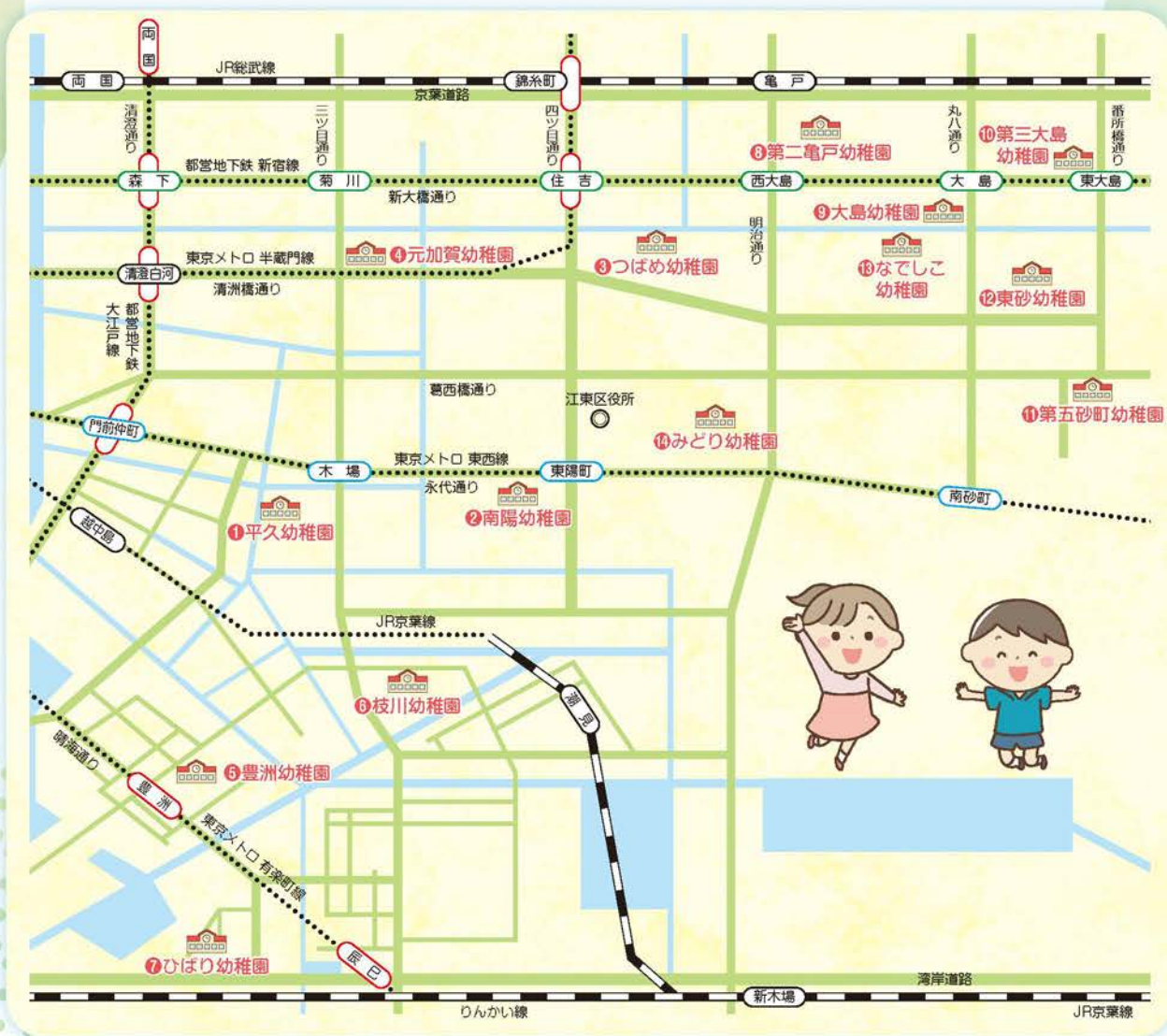


幼稚園、
楽しいね！



クマさん(教師)、
目を覚ますかな？
教師との言葉の
やり取りを
楽しんでいます。

区立幼稚園14園 略図



No.	園名	所在地	電話番号
①	平久幼稚園	木場 1-2-2	03-3645-6260
②	南陽幼稚園	東陽 2-1-14	03-3649-1077
③	つばめ幼稚園	扇橋 3-20-13-101	03-3649-1841
④	元加賀幼稚園	白河 4-9-17	03-3641-1778
⑤	豊洲幼稚園	豊洲 4-4-4	03-3531-9272
⑥	枝川幼稚園	枝川 3-4-1-101	03-3615-1333
⑦	ひばり幼稚園	東雲 2-4-1-103	03-3529-1454

No.	園名	所在地	電話番号
⑧	第二亀戸幼稚園	亀戸 6-36-1	03-3684-1894
⑨	大島幼稚園	大島 5-38-1	03-3684-3396
⑩	第三大島幼稚園	大島 7-39-2-101	03-3685-5945
⑪	第五砂町幼稚園	東砂 7-5-27	03-3644-2209
⑫	東砂幼稚園	東砂 4-20-1	03-3644-1942
⑬	なでしこ幼稚園	北砂 5-20-7-102	03-3640-7275
⑭	みどり幼稚園	南砂 2-3-3-101	03-3649-5840

令和5・6・7年度 実践研究報告書

令和7年度区幼研だよりNo49 令和8年1月28日発行

編集・発行 江東区立幼稚園教育研究会 印刷・製本 睦美マイクロ株式会社